特255
843

青森市産業要覧

青森市役所

始

特255
843

帝國圖書館藏

青森市産業要覧

昭和二・四・二八・内交

緒言

本書ハ我青森市ノ産業ノ大勢ヲ世ニ紹介セムカ爲發刊シタルモノナルモ公務多忙ノ際短時日ヲ以テ編纂セルモノナレバ遺漏誤謬ノ憾ナキニ非ラス漸次版ヲ重ネテ之レカ完璧ヲ期セムトス尚調査ハ大正十四年ノ事實ニ基ツキタルモノナリ

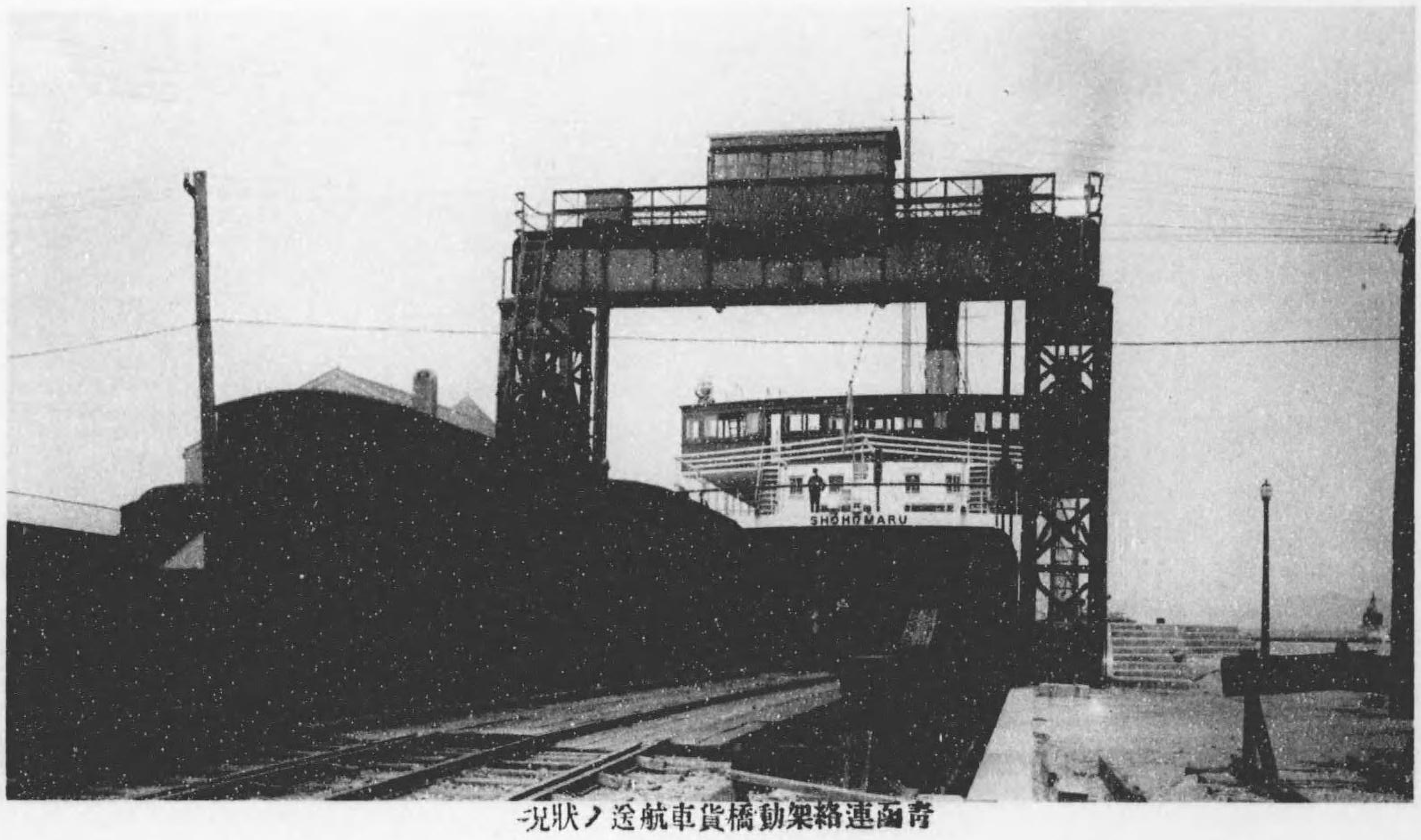
昭和二年　月　日

編者識ス

縣廳前通り

市役所及裁判所前通リ

公會堂



青函連絡架動橋貨車航送ノ状況

堤町通リ

今浦公園池畔

(1)

青森市産業要覽

目次

總　說
一、地　勢……一
一、沿　革……一
一、氣　象……二
一、戶　口……三
一、產業槪要……五
農　業
一、耕地面積及戶口……六
一、農產物……七
一、農家副業……八
一、農事に關する團体及其の施設……八
畜　產　業

一、家畜……九
一、畜産物……一〇
一、養鶏……一一

水産業

一、現況……一二
一、漁業種類……一三
一、漁船……一四
一、漁獲物……一四

水産製造業

一、現況……一五
一、海参……一五
一、乾鰛……一六
一、蒲鉾及竹輪……一七
一、魚肥……一八
一、水産に關する團体……一九

工業

一、現況……二〇
一、工業者數……二一
一、工場……二一
一、工產物……二三
一、味噌……二五
一、醬油……二六
一、菓子類……二七
一、罐詰類……二八
一、麵類……二九
一、木工品……二九
一、履物……三〇
一、工業に關する施設……三一

商業

一、現況……三三
一、汽車乘降客……三五
一、汽車出入貨物……三五

一、青森、函館間聯絡船乗降客……三六
一、青森、函館間聯絡船出入貨物……三七
一、青森、室蘭間船舶乗降客……三七
一、青森、室蘭間船舶出入貨物……三八
一、青森港入港船舶……三八
一、青森港貿易……三八
一、銀　行……三九
一、信託業……四二
一、無盡業……四三
一、商業會議所……四三

組合及會社工場

一、産業組合……四四
一、重要物産同業組合……四五
一、準則組合……四五
一、會社工場……四六

目次終

青森市産業要覧

總説

一、地勢　青森市は本州東北の盡頭に位し東西一里十一町南北十三町面積百四十七萬三千餘坪あり而して其の東西南の三方は田野を以て包圍せられ野内川、堤川、沖舘川及新井田川の各流域相接し鐵路西南二十三哩餘にして津輕藩の舊城趾弘前あり東九哩餘にして淺虫の温泉あり北は陸奥灣の蒼波に臨み北海道の函館は海程僅に五十餘海里を隔つるに過ぎす街路平坦にして市中人家櫛比し殷賑にして商業最も盛なり

一、沿革　青森市は舊津輕藩の領地にして往時の世の所謂蝦夷外ヶ濱の一部落にして善知烏村と稱し只僅かに西に安方東に蜆貝の漁戸點在する一寒村に過ぎざりしが

津輕藩主津輕信牧寬永元年開港して青森と改稱せしに創まり爾來漸次發達し寬文十一年陣屋を設けられ明治四年縣廳を此の地に置き二十四年東北本線鐵道開通し益々賑盛に向ひ三十一年には人口二萬八千人に達し船舶の出入一千八百四十隻其噸數九十五萬五千噸を算するの盛況を呈し此年市制を實施するに至れり三十七年には公衆電話を架設せられ同年水道布設の工を起して四十二年之が竣工を告け同三十九年開港場に指定せらる同四十三年五月安方町より火を發し全市焦土と化したるも數年にして復興せり又一面交通運輸の增加發達に伴ひ港灣修築の必要急切なるものあるに至り遂に大正四年國庫の補助を受け縣費を以て工事に着手し約十ヶ年の長年月を費して大正十三年八月全く其の工を終れり同年同月羽越線の全通成るに及ひて本市は之が起點として交通上重要の位置を占め更に最近北海道との連絡設備の完成と共に貨車航送を開始し交通史上一大革新を與へたり

一、氣象　本市は位置と地勢との關係上種々氣象に影響を受くる事あるも本縣東海岸地方の如く寒流の爲めに惡濕寒冷の東風を送られて農作物を犯さるゝか如き事極めて尠く只冬季大陸高氣壓の爲めに西北の寒風吹き荒ひ甚大の降雪を齎らし積雪は往々五尺を超へて交通に支障を來すことあり過去四十年間の氣象觀測成績に徵するに年平均氣温は攝氏九度三每日最高氣温の平均は攝氏十三度七每日最低氣温の平均は攝氏五度四氣温の最高極は攝氏三十六度〇最低極は攝氏零下十九度〇にして一月に尤も寒く八月に暑く快晴三十日降水日數は二百二十日にして其内降雪の日數は大半を占む風向は夏季南西の風を除けば春秋冬を通して偏西風卓越し平均風速は秒速三米にして全く强勢ならさるも時に秒速二十米以上に及ふことあり

一、戶口　明治三十一年市制施行の當時は戶數六千百七十七戶人口二萬八千七百八十人なりしも其の後本市商業殷賑を來すに從ひ他郡市又は他府縣人の入込むもの多

く大正十四年末に於ては戸數一萬二千三百三十三戸人口六萬一千九百五人となれり之を明治三十一年に比較するときは戸數に於ては六千百五十六戸を増し約二倍となり人口に於ても三萬三千百二十五人を増し約二倍半の増加を示せり最近五ヶ年間の戸口左の如し

年別	現住戸數	現住人口
大正十四年	一二、三三四	六一、九〇五
同十三年	一一、九一一	五九、二八七
同十二年	一一、三五九	五六、一四五
同十一年	一〇、六六六	五二、七一六
同十年	一〇、二六六	五〇、八四二

現住戸數は前揭の如くなるが更らに之を職業別に現はすときは左表の通りにして商業の三千七百三十四戸を第一位とし次に工業の二千九百三十五戸を第二位とし

て漁業之れに次く

年別	農業	工業	商業	漁業	其他	計
大正十四年	一九三	二、九三五	三、七三四	二〇六	五、二六六	一二、三三四
同十三年	二〇八	一、八五一	三、五九〇	二二一	六、〇四一	一一、九一一
同十二年	二五一	一、六三七	三、六五六	二三一	五、五八四	一一、三五九
同十一年	二三三	一、〇九〇	三、四八三	二六五	五、五九七	一〇、六六八
同十年	二三七	六九六	三、八三八	二八〇	五、二一五	一〇、二六六

一、産業概要　本市の地たる區域狹少にして東、西、南の三方は山に圍まれ北方海に面したる平地の一小部分に過ぎす加ふるに地質瘠薄にして農業の適地極めて尠し殊に本市は北海道へ渡航の要津に當るを以て多くは商業を主とし工業之れに次き農業は年々縮小せるの傾きあり而して本市に於ける最近の生産額は五百四拾八萬貳千七百參拾七圓にして之れを十年前に比するときは約二倍半の増加にして今後社

會の進運に伴ひ益々發展すへきは疑を容れさる處なり今最近五ヶ年間に於ける物産の趨勢を示せは左の如し

年別	農業	水産	工産	畜産	計
大正十四年	一一一、七〇七円	三四、三一三円	五、〇八九、〇八六円	二四七、六三一円	五、四八二、七三七円
同十三年	一〇九、二五四	三一、三四一	四、七三一、七六六	二五九、三四八	五、一三一、七〇九
同十二年	九七、八五一	四〇、七七一	四、九六三、五四四	一九六、三八二	五、二九八、五四八
同十一年	一〇二、一六七	三〇、八二四	三、五八九、一五五	一九一、三四三	三、九一三、四八九
同十年	九五、八九三	六一、〇五〇	三、七五三、二六三	一三七、九四七	四、〇三〇、一五三

農業

一、耕地面積及戸口　本市の農業は地勢の關係上商業工業の發達と共に年々減少しつゝあるか大正十四年の統計に依れは現住戸數一萬二千三百三十四戸の内僅かに百九十三戸に過きす從業人員は四百十九人にして眞に微々たるものなり耕地は田百

二十六町八反歩畑三十三町九反歩合計百六十町七反歩にして之れを從業人員に割當つるときは一人平均三反八畝餘に過きす然れとも近く郡部の合併を見るへきを以て其曉には著しく反別の増大することとなるへし

一、農産物　本市の農産物としては米、馬鈴薯其他野菜類に過きす而して其産額は最近の統計に依れは十一萬一千七百七圓なり之れを細別すれは左の如し

種別	大正十四年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年
米	八一、三二四円	九〇、三八八円	七六、五六三円	七四、六三〇円	八四、三四二円
大豆	六一六	二八六	一五三	二四四	一四五
小豆	―	三五	―	五三	四〇
蘿蔔	五、四〇〇	五、二五〇	七、二九〇	一一、七六〇	一、一二〇
漬菜	四、六九八	一、四二〇	二、〇六四	二、五五二	一、二六〇
茄	三、四五〇	一、二一五	二、四三七	一、五六〇	一、三八〇
馬鈴薯	六、九八四	三、八七六	二、八八〇	六、一四九	三、四〇〇

長芋	二、一〇〇	七二〇	九九四	六一七	三四四
其他	八、一三五	六、〇五九	五、四七〇	四、六〇二	三、八六二
計	一一一、七〇七	一〇九、二五四	九七、八五一	一〇二、一六七	九五、八九三

一、農家副業　本市農家の副業としては藁工品を最たるものとするも稲作の豊富なる關係上他郡市に及はさると數等なり此の外養鷄、養豚、藁草履、下駄表、竹細工等の作業に從事するもの多少なきにあらさるも未た充分の產額に上らさるを遺憾とす

一、農事に關する團体及其の施設　青森市農會は明治三十五年の創立に係り農事の研究調查並に農業上に關する指導奬勵を爲し來れり從來實施したる事業中主なるものの左の如し

自家用採種田設置の奬勵、蔬菜速成栽培の奬勵、蔬菜市場の設置、馬鈴薯の萎縮病豫防、採種畑の設置、稲作立毛品評會及蔬菜立毛品評會の開催、農作物病

虫害驅除豫防劑實地指導、正條植勵行

畜産業

一、家畜　本市の家畜は牛、馬、豚の三種にして牛匹は大概ね搾乳用なり馬匹は多くは輓馬にして特に農業用として特に飼養するもの尠なし豚は食用として飼育せらる今最近五ヶ年の比較を擧くれは左の如し

種別	牛 牝	牛 牡	牛 計	馬 牝	馬 牡	馬 計
大正十四年	三七頭	四	四一	六九	九三	一六二
同十三年	四四頭	四	四八	二二	一七四	一九六
同十二年	四五頭	七	五二	二五	一三〇	一五五
同十一年	四三頭	一四	五七	一三	一三一	一四四
同十年	四八頭	一一五	一六三	三五	一四四	一七九

種別		大正十四年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年
豚	牝	一七八	二〇九	四〇二	二六四	八一
	牡	四九	一三二	一三三	九五	四五
	計	二二七	三四一	五三五	三五九	一二六

一、畜産物　本市の畜産額は年々增加の趨勢にあり就中居肉にありては近來肉食の向上せる結果として著しき增加を見るに至れり之れに次いて牛乳及鷄卵の需用甚た多く共に畜産額の主たるものなり今各種の産額に付き五ヶ年間の比較を擧くれば左の如し

種別	大正十四年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年
牛	一、〇二五円	九六五円	四二〇円	一、四九〇円	七九〇円
馬	一八〇	一六五	二五五	—	—
豚	一、九六九	七、六二〇	九、二八六	一〇、五七五	一、三二〇
鷄	三、〇〇五	三、〇八〇	三、三八四	二、三二二	一、〇三五
鷄卵	一七、五八四	一六、五一三	二四、九一二	二七、三二二	二六、三五〇

種別	大正十四年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年
牛乳	三六、一六〇	二六、三二五	二二、〇五〇	三七、八〇〇	三〇、二七五
養蜂	三二二	三五七	二五九	四五〇	八二二
居肉	一七九、〇七四	一九四、九〇六	一二七、二四六	一〇五、三六〇	七三、六二八
生皮	八、三一二	九、四一七	八、九九〇	六、〇二四	三、七二七
計	二四七、六三一	二五九、三四八	一九六、三八二	一九一、三四三	一三七、九四七

一、養鷄　農家の副業として頗る有利の業とす即ち資本を要すること極めて少く其飼育も亦甚た容易なるを以て之を普及せしむること難事にあらず而して鷄及卵の需要は至る處甚た大なるを以て決して販路に苦むの憂なし故に養鷄は最も安全にして且つ有利の事業なれは將來大に發展の望あるものとす最近の統計に依れは本市に於ける鷄數及生卵數左の如し

年別	飼養戸數	羽數	生卵數	生卵價額
大正十四年	九二七	一一、一〇四	三二三、二五〇	一七、五八四円

大正十三年	七七二	九、四六六	二七三、五八八	一六、五一三
同十二年	六四九	一一、九五六	四一二、八六〇	二四、九一二
同十一年	七四五	九、八四六	四五四、五二四	二七、三二二
同十年	七九四	四、九三〇	三七六、五〇〇	二六、三五〇

水産業

一、現況　本市の漁場は地勢上沿岸近く來る暖流漁場にして專ら暖流魚族を主とし沿岸漁業に從事するものなるが漁場は商港として多數の船舶出入する靑森灣內にある爲め商船出入の頻繁なるに從ひ魚族の棲息を妨くるの關係上漁獲物を減少し從事者も年々減するの傾きあるは遺憾とするところなり今最近五ケ年間の漁戶及漁業者を表示すれは左の如し

年別	本業		副業		計	
	戶數	人員	戶數	人員	戶數	人員
大正十四年	一五八	二二三	四八	六一	二〇六	二八四
同十三年	一六六	二二八	四二	五四	二〇八	二八二
同十二年	一八三	二五八	四八	五九	二三一	三一八
同十一年	二一四	二四〇	五一	六三	二六五	四〇三
同十年	二二五	三八三	五五	六五	二八〇	四四八

一、漁業種類　本市の漁業は手繰網、流網を使用するもの最も多く中には猪口網、桁網、汽船手繰網等を使用するものあり即ち左表の如し

種別	大正十四年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年
猪口網	九統	九	九	九	九
打瀬網	一	二	二	二	二
汽船手繰網	五	七	七	七	一四
手繰網	四一	三六	三八	三七	四八
流網	三七	三一	三一	四一	四三
地引網	二	三	三	三	三
桁網	九	一〇	一二	一三	一七
計	一〇三	九八	一〇二	一一二	一三六

一、漁船 從業者の減少するに從ひ年々多少の減少を見る

種別	大正十四年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年
二間未滿	一	—	一	—	—
三間未滿	二	—	一	二	二
五間未滿	六七	七八	七九	九六	九七
五間以上	六	四	二	二	二
計	七六	八二	八一	一〇〇	一〇一

一、漁獲物 本市漁場の漁獲は鰮、鯖、鱈、鮃、鰈、鳥貝、ほや等にして鰮、鰈は其の最たるものとす特に輓近大羽鰮の日本海沿岸より津輕海峽を經て陸奥灣内に回游し更に太平洋方面に向ふもの漁獲せらるるに至りたるため一層其の漁獲を增すに至れり最近五ケ年の漁獲高を示せば左表の如し

種別	大正十四年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年
鰮	一〇、九九五円	七、七四〇円	七、六九〇円	二、七〇〇円	一八、五六八円
鯖	一、七五〇	一、四〇〇	七二〇	一、二八〇	五〇〇
鱈	一、九七一	三、五〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	一三、六〇〇
鯛	一、八〇〇	七二〇	六四〇	三三〇	四〇〇
鮃	一、八三六	一、五二〇	一、八〇〇	二、二六八	一、八〇〇
鰈	一一、六四〇	一二、二五〇	一五、七五〇	一三、九五〇	二三、五〇〇
鳥貝	一、一四〇	一、一〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	二、一〇〇
ほや	三一五	二七六	一五〇	二五二	三七五
其他	三、〇六六	二、八二五	二、九二一	一、三四四	一、二〇七
計	三四、五一三	三一、三四一	四〇、七七一	三〇、八二四	六一、〇五〇

水產製造業

一、現況 本市に於ける水產製造業の重なるものは海參、乾鰮、蒲鉾、竹輪、粕類等にして今其の概況を擧くれは左の如し

一、海參（エリゴ） 本品は陸奥灣内に產する海鼠（ナマコ）を採獲製造したるものにして其の形狀甚た大

に刺多きを以て名あり其の製造方法は本市堤町近藤善吉氏の特有とする處にして本市の特産品として其の名海外に普ねし然れとも産額は年々減少の傾きあるを遺憾とする處なり而して此海參は多くは支那貿易品にして相當の輸出を見るも製造に従事するもの甚た少なきを以て將來は之を保護奨勵して益々精良品の産出を圖るを肝要とす最近の生産額を擧くれは左の如し

年別	製造數量	百斤（十六貫）ニ付單價	製造價額
大正十四年	二八、〇〇〇斤	二一〇円	五、八八〇円
同十三年	三二、〇〇〇	二三〇	七、三六〇
同十二年	四三、〇〇〇	二六〇	一一、一八〇
同十一年	五四、〇〇〇	二七五	一四、八五〇
同十年	五八、〇〇〇	二九〇	一六、八二〇

一、乾鰮　鰮の生産額増大するに従ひ之が利用法に就ては素干品として田作又は煮干製とするもの多く近年大羽鰮の漁獲大なるに及ひ肥料に製造するもの甚た多し燒干品は本市の特産品にして近時其の販路擴張せられ需要逐次増進せり大正十四年中の製造高左の如し

種別	數量	價額
燒干	六、九六〇貫	一〇、四四〇円
鹽干	三、四六〇	二、〇七六
素干	三六〇	五四〇
計	一〇、七八〇	一三、〇五六

一、蒲鉾（カマボコ）及竹輪（チクワ）　本品の原料は種々あれとも本市の製品は多くは鮫及鱘を原料として製造し價額低廉なるを以て多數の職工を有する工場に歡迎せられ食料に供せらる從つて關西方面に輸出せらるるもの多し今最近の統計に依れは其の生産額左の如し

年別	製造高	製造額
大正十四年	一七八、七五二貫	二六八、一二八円
同十三年	五七、九八〇	一一五、九六〇
同十二年	一二六、六〇〇	二五三、二〇〇
同十一年	八八、三八九	一一九、三二五
同十年	五五、〇〇〇	七一、五〇〇

一、魚肥　本市の魚肥は主として鰮を以て締粕となす近時鰮魚獲の増大せると共に其の製産額も亦増加したり而して之れか販賣先の主なるものは東京、栃木、茨城、福嶋、群馬、長野の諸縣に亘る最近鰮締粕の生産額を擧くれは左の如し

年別	製造數量	製造價額
大正十四年	一四、四〇〇貫	八、六四〇円
同十三年	七、五〇〇	五、六二五

同十二年	二、五〇〇	一、八七五
同十一年	四、〇〇〇	二、五二〇
同十年	四〇、〇〇〇	二四、〇〇〇

一、水産に關する團体　青森漁業組合は明治四十四年十二月設立せられ爾來漁業權を組合員に使用せしめ漁獲物の共同販賣場を設け當業者に利益を與へ且つ斯業の指導啓發を爲し大に發展を期する處ありしが其の後役員の死亡變更ありて今日に於ては何等見るへきなきを遺憾とす又大正十五年九月二十三日青森罐詰製造同業組合を設置し斯業の改善發達を圖る爲め左記事業を行ふ

（イ）製品檢査及取締
（ロ）製品等級制定
（ハ）販路擴張商況の調査
（ニ）取引上の改善保護

（ホ）弊害矯正の施設其他組合にて必要と認めたる事項

工業

一、現況　本市の工業は甚た幼稚にして其の生産額五百八萬九千圓に過きす近來稍發達の機運に向ひつゝあるものは洋服、菓子、味噌、醤油、罐詰、蒲鉾竹輪、鉽力製器、蠟燭、氷、桶樽類、建具指物、履物、印刷物、飴、粉類、ゴム製品等にして其他は甚た微々たるものなり然れとも本市は正に工業地として起すへき素地を有す即ち本縣は山林に富み樹種の如きも杉、松、羅漢柏、落葉松、白楊樹、漆、欅、山毛欅、桐等を産出し木工品の原料豊富にして且つ山野には蔓細工の原料たる木通蔓の繁茂するありて他より補給を要せさるなり殊に工業の原動力たる石炭は近隣の北海道に於て多量に産出するあり又電力を使用せんとせば現在の電燈會社をして之れに應せしむるを得へし需用地も亦其の範圍廣汎にして販路に苦むの要なし進んて業を起すに

於ては容易に發展の實を得へし

一、工業者數　本市の工業戸數は二千九百三十五戸にして從業人員四千九百八十二人なり最近の統計を擧くれは左の如し

年別	本業		副業		計	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
大正十四年	二、六七八	四、八四八	二五七	一三四	二、九三五	四、九八二
同十三年	一、六三八	二、五一〇	二一三	一六一	一、八五一	二、六七一
同十二年	一、四三一	二、二一一	二〇六	二七三	一、六三七	二、四八四
同十一年	一、〇六二	二、七一六	三六六	五一九	一、四二八	三、二三五
同十年	八七七	一、九一八	二一三	三四〇	一、〇九〇	二、二五八

一、工場　本市の工場は其の主なるもの味噌製造四、醤油釀造二、清涼飲料水製造四飴製造二、製氷一、罐詰製造八、蒲鉾竹輪製造四、澱粉及粉類製造四、印刷業六製材十二、柾製造四、製函二、製樽一、スキー製造一、建具二、燐寸製造一、船

舶製造一、鐵工業五、紙器製造一、漉返紙製造二、護謨製品一、蠟燭製造一、煉炭一、其他合計百九十一箇所にして其使用職工一千九百三十人なり今最近の工場數及從業人員を擧くれは左の如し

（大正十四年）

種別	工場數	職工數
五人未満原動機使用	一二六	三一五
十人未満	三一	二二五
二十人未満	一三	二〇七
三十人未満	五	一三二
四十人未満	五	一七五
五十人未満	三	一三九
六十人未満	一	五七
七十人未満	二	一三六
八十人未満	一	八〇
九十人未満	一	八一
百二十人以上	三	三八三
計	一九一	一、九三〇

一、工產物　本市の工業は其の產額五百八萬九千圓にして尙幼稚の域を脫せす由來本縣は工業品の材料に富めるは前旣に述べたるところにして良材豊かなれば量衡器、農具、曲物、挽物、軸木、經木細工、蔓細工、竹細工、木履等工藝品の材料として餘りあり又本市としては米豆等の產額大ならさるも縣內の生產は大なるを以て味噌醬油等の原料として他縣より仰くの必要なく充分に釀成することを得へし依て各種工藝品の特產地たる他府縣に年々當業者を派して或は親しく其の工場を實査し製作品を見學せしめ或は販路を調査せしめて斯業改善發達に努めなば遠からす本市工業界を一新せしむるを得ん今本市の大正十四年中の工產物產額を擧くれは左の如し

種類	産額
洋服	一八五、二七六円
帽子	二、五六〇
足袋	一、〇三〇
莫大小	四、二五〇
染物	一四、六〇〇
菓子	二〇三、五二六
菓子種	五、六五〇
飴	三〇、三〇七
粉類	七九、二三五
清涼飲料水	三八、四四七
味噌	三三二、四八二
醤油	二九七、五五〇
麺類	四八、二八六
罐詰	三五三、一七五
燒干鰮	一〇、四四〇
蒲鉾竹輪	二六八、一二八

種類	産額
銅鐵器	九八、〇〇八円
鉱力製器	一〇〇、四六三
金銀製品	八、九〇五
車輛	二六、七一〇
船	八、六六〇
石灰	九、五八五
貝灰	四、七七一
和紙	二五、四三二
油類	一五、七六五
蠟燭	四一六、九二六
護謨製品	六〇、〇〇〇
氷	一九四、三五六
桶樽	一五二、五一四
曲物	一八、六八四
柾	七〇、二七五
スキー	二〇、〇〇〇

建具指物	二九七、四八〇
箱物	一二七、六七〇
履物（素地）	一二三、四七九
燐寸軸木	三、〇〇〇
蔓細工品	一〇、五四六
杞柳細工品	七三〇
竹細工品	二八、八六〇
藁工品	七、〇六一
疊	五二、〇四八
紙箱	四〇、二三五
印刷物	五〇七、八一一
傘	三、〇九二
提灯	二、八一六
造花	二三、七五〇
革製品	三四、〇七〇
搾粕	二三、六四〇
魚油	四、七一八
其他	六九二、〇七四

以上工産物中本市の特産品とも稱すへきもの左の如し

一、味噌　本品は日常必須の需用品なれば農家に於ては何れも自製品を使用すれども本市の製造に係るものは多く北海道及樺太、東京其他近縣へ輸出せられ好評を博しつゝあり而して當業者は優良品釀造に關し常に其の研究を怠らさるため愈々優良品を釀成するに至れり

年別	製造戸數	職工數	數量	價額
大正十四年	一〇	五三	四六八、二八五貫	三三二、四八二円
同十三年	一〇	五七	四六三、三〇〇	三二八、八七二
同十二年	一〇	五一	四五〇、八五〇	三〇六、五七八
同十一年	一〇	四八	五〇四、六一〇	三二八、三二四
同十年	一〇	四五	四六七、〇〇〇	三二六、九〇〇

一、醤油　本品も亦味噌と共に日常の必需品にして本市の釀成品は近時大に改良を加へられ頗る美味を帶ひたるものを産するに至りて他縣産を優に凌くに至れり販賣先は北海道其の首位を占む

年別	製造戸數	職工數	數量	價額
大正十四年	四	二五	五、八三六石	二九七、五五〇円
同十三年	四	二三	五、四六四	一九九、五一八
同十二年	四	二二	五、〇六二	一七二、五〇〇
同十一年	四	二九	四、七四八	一三〇、二九三
同十年	四	？	？	一八四、五〇〇

一、菓子類　製造者の技術近來著しく發達を來し他府縣に對し甚たしき遜色を見さるに至れり就中本市の昆布羊羹、飴、林檎菓子等は其の顯著なるものなり昆布羊羹及飴は本市獨特の製品にして其の名全國に普ねし從つて從來の共進會、博覽會等に出品して優良賞を得たること甚た多く當業者は益々本品の改良を講しつゝあるを以て將來有望なりとす

年別	製造戸數	職工數	製造價額
大正十四年	七二	一六〇	二〇三、五二六円
同十三年	七九	一六二	二五〇、八六五
同十二年	一〇一	二一三	三〇六、〇五四
同十一年	八五	一八五	二五六、三一〇
同十年	五六	一三三	二七三、七〇〇

一、罐詰類　本市の生産に係る罐詰は主として水産物にして果實蔬菜類の罐詰も多少は無きにあらさるも其の數極めて尠なし近時水産物の罐詰製造を專門とする坂上罐詰工場、大東食品株式會社、根市罐詰工場等の設立ありて大規模の設備を爲し鮭鱒等は遠く露領カムチヤツカ方面に於て漁獲し之を本市に航送し同工場に於て製造するものなるが本製品は對外貿易品として輸出せられ近時盛況を見るに至れり若し夫れ之れに加ふるに蟹の罐詰を以てせは益々外國貿易品の增大するを見るに至るへし

年別	數量	價額
大正十四年	二九五、三三五貫	三五三、一七五円
同　十三年	一一三、六八八	一二六、七九七
同　十二年	六〇、二〇一	七七、〇六〇
同　十一年	四八、六八〇	八九、九九八
同　十　年	二〇九、八〇〇	二三三、七二〇

一、麵類　乾饂飩及素麵の產額は四萬八千圓にして兩三年前に比し稍減少せるの傾きあるも品質優良なるを以て縣外へ輸出せらるゝもの尠しとせす輓近需要多きに至りたるを以て將來有望なり

年別	製造戸數	職工數	數量	價額
大正十四年	六	二一	四二、六五五斤	四八、二八六円
同　十三年	五	一四	四一、四五二	四六、八七三
同　十二年	六	一六	五二、七〇九	六〇、六三一
同　十一年	八	二四	五〇、六三〇	六三、二五三
同　十　年	九	三四	七一、九五〇	七五、〇九五

一、木工品　本市の木工品として見るへきものは雨戸、障子の類にして其の他の家具類は出來せさるにあらさるも精巧を欠くの嫌ありて未た稱揚するに足らす本市は

既に述べたる如く木工品の原料を得るに容易なるにも拘はらす尚遲々として振はさるは斯業に對し投資者の無きか爲めなり若し本業に對し資本を投下するものありて意匠を凝らし精巧品を成作するあらば爲めに輸入品を防遏し得へきのみならす又以て庶幾くは將來本市の重要輸出品となすことを得ん最近の統計に依り木工品中の指物、箱類等の生産額を擧くれば左の如し

年別	指物 製造戸數	指物 職工數	指物 產額	箱類 製造戸數	箱類 職工數	箱類 產額
大正十四年	六七	一七四	二九七、四八〇円	一五	八〇	一二七、六七〇円
同十三年	七二	一八九	二五四、二五七	一七	八四	一〇九、一四七
同十二年	七九	一八四	三〇二、九九二	一七	七八	九二、〇七九
同十一年	六三	一四二	一九七、四七五	一五	四八	一〇四、四二二
同十年	三一	一三五	五二、六〇〇	一八	四二	一九〇、九四三

一、履物（素地）　本市木工品中指物及箱類に次く重要品にして其の產額拾貳萬參千四

百七拾九圓に及ふ而して本品は素地の儘東京、橫濱及關西方面に輸出せらるゝもの極めて多し

年別	製造戸數	職工數	產額
大正十四年	一七	四五	一二三、四七九円
同十三年	一八	四四	一〇九、二七四
同十二年	一六	五一	九八、九二四
同十一年	一六	四六	一〇一、七五〇
同十年	一八	四五	七七、五〇〇

一、工業に關する施設　木工品の改良指導發達を圖るため大正二年五月青森市立徒弟學校を創立し年限二ヶ年なりしを大正四年三月三學年と改正し三學期とせり又大正六年九月青森市立工藝學校と改稱し現在家具科、建具科、建築科の三科を置き生徒を養成しつゝあり

商業

一、現況　往時運輸交通の便拓けさりし時代にありては青森の商業も遲々として振はさりしも津輕藩主津輕信牧公の此地開港せられてより以來明治四年縣廳を此地に置き同二十四年東北本線鐵道開通するに及ひ年を逐ふて交通の便備はり繁榮の度を加ふるに至れり而して本市は東北の盡頭にありて商取引は北は獨り北海道に止まらす遠く樺太、沿海州に及ひ南は又東北六縣に止まらす北越、京阪地方に亘り密接の關係を有せり特に本市は交通上樞要の地にあるを以て日夕の船車が呑吐する旅客の數日々六千以上に達し之等は多く本市の華客なり然るに近時青函連絡待合所移轉せられてより北海道來往の旅客は市中に下車するもの減少せられ爲めに市一部の商業者に對し一打擊を與へたるは誠に遺憾とする處なり然れとも本市は地理的關係上對露並北海道、樺太漁業の策源地として將又貨物の中繼地として多くの移出入を見るに至りて其の繁榮逐年增加の傾向にあり尙ほ内には他方人多く入込む師團及要港部の如きありて每年軍艦の遊弋商船の往來は益々頻繁を告くるあり或は風光を訪ふ者温泉に出入する者多きを加へ店頭に客を曳くの便日一日と殷賑なる狀況あり今大正十四年の統計に依り商業者の各業別に其の戸數を擧くれは左の如し

物品販賣業	二、六〇九戸	質屋	二八戸	牛馬宿	八戸
金錢貸付	一四六	下宿屋	三九	牛馬商	一二
物品貸付	五一	旅人宿	四三	運送業	一四
木賃宿	三	請負	一三	貸座敷	一五
料理屋	一四〇	勞働請負	一二	周旋業	一八
飮食店	九六	代理店	四一	其他	三〇

理髪　一五六　遊技場　一二　湯屋　二一
演劇場　七　計　三、七三四

一、汽車乘降客　本市内には青森、浦町及浪打の三停車場あるも浪打停車場は最近の設立にして規模甚た小に只其の方面の便を計りたるに過きさるを以て青森、浦町の兩驛に就き乘降客の狀況を見るに大正十四年に於ける青森驛の乘降客は百二十六萬三百九十四人、浦町驛乘降客は五十四萬八千四百十六人にして此合計百八十萬八千八百十八人なり一日平均約五千人を算す今最近五ヶ年間の統計を擧くれば左の如し

年別	青森驛			浦町驛		
	乘	降	計	乘	降	計
大正十四年	人 六四二、六〇六	人 六一七、七八八	人 一、二六〇、三九四	人 二七八、〇三八	人 二七〇、三七八	人 五四八、四一六
同十三年	五九八、四六六	五八五、五六八	一、一八四、〇三四	二八三、〇六三	二八二、六〇一	五六四、六六四
同十二年	五四五、七八四	五三四、二四二	一、〇八〇、〇二六	二七五、一三一	二七九、九六七	五五五、〇九八
同十一年	五〇四、三四八	四八八、一六五	九九二、五一三	二三九、一三〇	二四六、四七二	四八五、六〇二
同十年	四五五、二五〇	四四五、一六六	九〇〇、四一六	二〇四、八七八	二一三、二五二	四一七、一三〇

一、汽車出入貨物　最近貨物の出入數量は青森驛四十八萬一千百八十九噸浦町驛二萬五千五百三十三噸計五十萬六千七百二十二噸にして前年に比し稍減少せる傾きあるは大正十三年中木材價格の低落したるため移出量の減少を見るに至れるものなり最近五ヶ年間の貨物出入狀況左の如し

年別	青森驛			浦町驛		
	出	入	計	出	入	計
大正十四年	噸 二九九、五一一	噸 一八一、六七八	噸 四八一、一八九	噸 一六、三三八	噸 九、一九九	噸 二五、五三七
同十三年	三四四、九三八	一五五、八〇二	五〇〇、七四〇	三三、八四三	八、一三一	四一、九七四
同十二年	二九五、一〇八	三九一、六三五	六八六、七四三	一八、〇二一	八、三三〇	二六、三五一
同十一年	二七〇、〇二三	一四四、二四六	四一四、二六九	一五、六三二	九、三八二	二五、〇一四
同十年	二三三、一三五	一四三、八九八	三七七、〇三三	一七、一六八	八、五九七	二五、七六五

一、青森、函館間聯絡船乗降客　大正十四年中青森驛より乗船したるもの五萬五千五十二人又青森市へ下船せるもの五萬六千八百六十八人にして出入合計十一萬一千九百二十人なり之を前年に比し著しき増加を見さるも年々北海道へ往復するもの増加の趨勢にあり又中繼にありては乗客三十二萬六十四人降客三十一萬八千七百八十六人合計六十三萬八千八百五十八人にして年々著しき増加を見る最近五ヶ年間の比較を示せは左の如し

年別	自驛 乗	自驛 降	自驛 計	中繼 乗	中繼 降	中繼 計
大正十四年	五五、〇五二人	五六、八六八人	一一一、九二〇人	三二〇、〇六四人	三一八、七八六人	六三八、八五〇人
同十三年	五四、七二五	五六、八五四	一一一、五七九	二八八、〇九六	三〇二、〇一七	五九〇、一一三
同十二年	五三、八〇〇	五四、八一四	一〇八、六一四	二三四、四三七	二九三、四〇九	五二七、八四六
同十一年	五〇、二八一	五一、二八一	一〇一、五六二	二六一、一〇三	二七〇、八二一	五三一、九七三
同十年	四六、〇九七	四九、一〇七	九五、二〇四	二四二、四二三	二六七、八七四	五一〇、二七九

一、青森、函館間聯絡船出入貨物　大正十四年中青森驛より發送せる貨物は三千四百四十噸又到着せる貨物は一萬百七十三噸計一萬三千六百十三噸にして中繼せるもの出は三十一萬五千五百二十四噸入は三十萬四千五百三十六噸計六十二萬六十噸なり之を前年に比し十八萬九千七百六十二噸の増加にして年一年中繼貨物の増加を見る即ち左表の如し

年別	自驛 出	自驛 入	自驛 計	中繼 出	中繼 入	中繼 計
大正十四年	三、四四〇噸	一〇、一七三噸	一三、六一三噸	三一五、五二四噸	三〇四、五三六噸	六二〇、〇六〇噸
同十三年	二、九四五	八、二八四	一一、二二九	一五九、八五〇	二七〇、九八九	四三〇、八三八
同十二年	三、二〇一	八、七五五	一一、九五六	一六七、〇八〇	二二五、八五〇	三九二、九三〇
同十一年	四、五八一	七、〇〇四	一一、五八八	一七三、六四三	二五一、三四七	二四四、九九〇
同十年	六、七五三	七、七八七	一四、五四〇	一七八、一四六	二二八、六八七	四〇六、八三三

一、青森、室蘭間船舶乗降客　大正十四年中青森室蘭間の船舶乗降者は四萬八百十一

一人にして之亦年々増加の傾向にあり最近五ヶ年間自驛及中繼の旅客を示せば左の如し

年別	自驛 乘	自驛 降	自驛 計	中繼 乘	中繼 降	中繼 計
大正十四年	二〇、〇五八人	二〇、七五三人	四〇、八一一人	?人	?人	?人
同十三年	一一、一四二	一二、四三三	二三、五七五	七、四二七	八、二八八	一五、七一五
同十二年	一一、七九九	一二、一三七	二三、九三六	七、八六五	八、一〇九	一五、九七四
同十一年	一〇、三〇九	一八、六七六	二八、九八五	九、九一六	一二、四五〇	二二、三六六
同十年	二一、六一一	一八、九五〇	四〇、五六一	?	?	?

一、青森、室蘭間船舶出入貨物

年別	自驛 出	自驛 入	自驛 計	中繼 出	中繼 入	中繼 計
大正十四年	一四、五三七噸	五九、三九〇噸	七三、九二七噸	二一、一六六噸	三〇、二八五噸	五一、四五一噸
同十三年	二三、九三二	六一、三二六	八五、二五八	一九、五七九	四九、九九三	六九、五七二
同十二年	二一、二二二	五七、七七七	七八、九九九	一五、四四八	一五、三三九	三〇、七八七
同十一年	二一、一八六	三〇、七二一	五一、九〇七	一四、五二一	三二、三二四	四六、八四五
同十年	二四、二〇六	四二、四四九	六六、六五五	一〇、二九九	二〇、三二五	三〇、六二四

一、青森港入港船舶　大正十四年中青森港へ入港せる船舶は總數六千八十六艘にして此登簿噸數四百十九萬三十二噸なり其の種類別を掲ぐれは左の如し

汽船	四、四七五艘	總噸數	六、九六五、三三七噸	登簿噸數	四、一七〇、二四一噸
汽關ヲ有スル帆船	九四	同	四、六二一噸	同	二、八三三噸
汽關ヲ有セサル帆船	一、五一七	同	一六、九五八噸	同	｜
計	六、〇八六	同	六、九八六、九一六噸	同	四、一七三、〇七四噸

一、青森港貿易　本港の貿易は近年著しく發達して最近の調査に依るに輸出高は壹億五千〇四拾八萬貳千五百七圓に上り之を大正十年の輸出高に比較するときは六千七百七拾七萬七千八百八拾參圓を増し又輸入にありては最近の八千六百八拾七萬參千八百九拾七圓を大正十年に比するに七百六拾四萬壹千參百五圓の増加なり而

して此の內外國貿易に屬するものを見るに其の輸出にありては七萬七千六百參拾九圓輸入にありては九百貳拾五萬〇四百五拾九圓を算せり尚外國輸入の重なるものは大連の大豆及大豆粕、尼古來斯、沿海州よりの鹽魚、ボルネオよりの原油、シマトラよりの揮發油、同石油、和蘭よりの油蠟、英國よりの鐵板等なり最近五ケ年間の輸出入高の比較を示せば左の如し

年別	輸出 內國貿易	輸出 外國貿易	輸出 計	輸入 內國貿易	輸入 外國貿易	輸入 計
大正十四年	一五〇、四〇四、八六八円	七七、六三九円	一五〇、四八二、五〇七円	七七、六二三、四三八円	九、二三〇、四五九円	八六、八七三、八九七円
同十三年	九七、二一一、三九四	五五一、八〇三	九七、七六三、一九七	七二、八九三、五〇八	七、一五四、一二五	八〇、〇四七、六三三
同十二年	六九、八〇八、九〇一	一〇九、四四六	六九、九一八、三四七	六八、八七五、一二〇	四、八七五、一四九	七三、七五〇、二六九
同十一年	五六、九四四、五二八	二五五、一二九	五七、一九九、六六九	五三、五四〇、四一七	四、三四九、二七九	五七、八八九、六九六
同十年	八二、四五一、七一〇	二五二、九一四	八二、七〇四、六二四	七七、二九八、八一〇	一、九二三、七八二	七九、二三二、五九二

一、銀行　本市に於ける各種商工業の振興は金融機關の發達を促し銀行業の發展著しきものあり最近本市に本店を有するもの六又他銀行にして本市に支店を設けたるもの六合計十二銀行あり而して本市に本店を有する銀行の資本總額は四百六拾萬圓此の拂込濟額貳百五拾九萬貳千五百圓各種積立金參拾九萬九千九百圓なり又總預り金は七百六拾貳萬五千六拾圓にして貸付金總額は七百六拾萬參千六百參拾九圓を算せり今之を銀行別に揭くれば左の如し

銀行名	所在地	設立年月	資本總額	拂込濟額	各種積立金	預り金	貸付金
株式會社青森商業銀行	濱町	明治廿七年六月	一、五〇〇、〇〇〇円	九一五、〇〇〇円	一一六、五〇〇円	一、二六三、四六二	一、六九四、一一八円
同　青森銀行	大町	同　廿九年六月	一、〇〇〇、〇〇〇	六四〇、〇〇〇	一二〇、六〇〇	一、三一一、四九〇	一、六二六、七九〇
同　鳴海銀行	新町	大正九年八月	一、〇〇〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	六七、〇〇〇	一、九四三、五一〇	一、六八一、八八八
同　東奥銀行	大町	同　十一年六月	一、〇〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	一、五九二、九六〇	一、一九一、三七五
同　青灣貯蓄銀行	同	明治卅二年二月	五〇、〇〇〇	一六二、五〇〇	七二、〇〇〇	一九五、三五七	六五八、九〇二
同　青森貯蓄銀行	米町	大正十年十二月	五〇、〇〇〇	一二五、〇〇〇	九、八〇〇	一、三一八、二八一	七五〇、五六六
計	｜	｜	四、六〇〇、〇〇〇	二、五九二、五〇〇	三九九、九〇〇	七、六二五、〇六〇	七、六〇三、六三九

以上の外本市に於ける各地の銀行支店の資金吸集並に貸出の狀況は預り金總額壹千貳百參拾四萬六千參百貳拾貳圓にして貸付金總額貳千百四拾參萬七千參百參拾九圓なり今各支店別に掲くれは左の如し

支店名	所在地	本店ノ位置	支店創立年月	本店共同資本金	拂込濟額	支店取扱高 預り金	支店取扱高 貸付金
株式會社 安田銀行青森支店	大町	東京市麹町區	明治卅二年五月	一五〇、〇〇〇、〇〇〇円	九二、七五〇、〇〇〇円	五、七六八、三五七円	三、九九八、一八四円
同 勸業銀行青森支店	米町	同	大正十二年六月	九四、〇〇〇、〇〇〇	六九、八七六、〇六三	三八〇、九二九	一、七〇七、一〇八
同 第五十九銀行青森支店	大町	弘前市親方町	明治十二年七月	一〇、〇〇〇、〇〇〇	五、三五二、五〇〇	三、三四九、〇六四	三、八一六、九七〇
同 盛岡銀行青森支店	米町	盛岡市紺屋町	大正十 年六月	七、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇二、五〇〇	一、四四〇、三二六	八九六、四四三
同 津輕銀行青森支店	大町	弘前市百石町	大正十一年四月	一、五〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	三六六、二〇二	四九七、〇九九
同 共榮銀行青森支店	米町	東京市神田區	大正三 年十月	一、〇〇〇、〇〇〇	三二五、〇〇〇	九四三、四四四	五二一、九三五
計	一	一	一	二六三、五〇〇、〇〇〇	一七三、二二六、〇六三	一二、三四六、三三三	一一、四三七、三三九

一、信託業　本市に於ける信託業者は青森信託株式會社一社にして同社は大正十三年五月免許を受け專ら金錢及有價證券の信託を主とし未た信託知識の一般的普及を見さる今日に於て左記の如き成績を擧けつゝあり

資本金　一、〇〇〇、〇〇〇圓　　拂込濟資本金　二五〇、〇〇〇圓

信託口數　二八七　　信託財產　八三〇、三七五圓

一、無盡業　本市内の無盡業者は株式會社二及弘前無盡株式會社青森出張所の一あるのみにして前記二會社の狀況を示せは左の如し

名稱	所在地	資本總額	拂込濟額	契約口數	給付金契約高
盛融無盡株式會社	寺町	五〇、〇〇〇円	二五、〇〇〇円	四、七五二円	二、〇七〇、〇〇〇円
青森無盡株式會社	米町	二〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一五、五六六	七、四七八、二〇〇

一、商業會議所　青森商業會議所は明治三十六年十月の創立にして事業としては定時月報を發刊して内外市場に於ける貿易品の狀況其の他參考に資すへき調査及ひ統計を發表し或は商人の依賴に應して調査證明又は紹介の勞を取る等當業者に利便

を興ふるに努めつゝあり

組合及會社工場

一、産業組合　本市の産業組合は其の數九組合あるも購買販賣組合は事業甚た振はさるに反し市街地信用組合は運轉資金相當に抱擁し組合員の産業並に其の經濟上の發展に努めつゝありて漸次見るべきものあるに至れり大正十四年末の狀況を掲くれは左の如し

組合名	所在地	組合員數	出資口數	出資總額	同上拂込額	積立金	貯金
青森信用組合	鍛冶町	一、二六五	一三、七〇六	四二一、一八〇円	三二二、六一六円	一三、三五四円	七〇八、六四八円
青灣信用組合	博勞町	三六六	三、〇六七	六一、三四〇	三八、四三六	六、七五六	三四、五二七
青森庶民信用組合	米町	二六一	二、五六六	七六、九八〇	四五、四七八	二、五四五	三〇、八六三
青森建具購買販賣組合	同	二七	五三五	五、三五〇	三、三三一	一、二七一	―
青森桶職材料購買販賣組合	新濱町	二八	三、一七〇	三、一七〇	二、五三八	―	―
青森靴購買販賣組合	長嶋	一八	一一九	七、六〇〇	三、七六三	一、五〇〇	―
青森疊刺職購買販賣組合	鍛冶町	一六	五五	五五〇	五〇八	―	―
青森曲物柾購買販賣組合	長嶋	三九	一四四	四、三二〇	三、〇六三	―	―
青森農倉信用組合	安方	六三	五二三	二六、一〇〇	一七、八九六	―	一〇、二二三
計	―	二、〇八三	二三、八八四	五九六、五九〇	四三七、六二八	二五、四二六	七八四、二五〇

一、重要物産同業組合　本市の同業組合は藁工品商を以て組織せるもの及ひ罐詰製造業者を以て組織せるものの二組合にして事業は營業上の弊害を矯正し信用を保持し製品の檢査改良統一其他營業の發達共通の利益を計るを目的とせり

名稱	設立年月	所在地	組合員數	一ヶ年經費
東青藁工品同業組合	大正十年七月	米町	二一八	二、七八七円
青森罐詰製造同業組合	同十五年九月	安方町	？	一、九〇五

一、準則組合　本市の準則組合は其數三十三にして種類は各種商工業に亘り多種多様

なり而して其の成績は良好なるものありと雖概して不振の狀態にあり

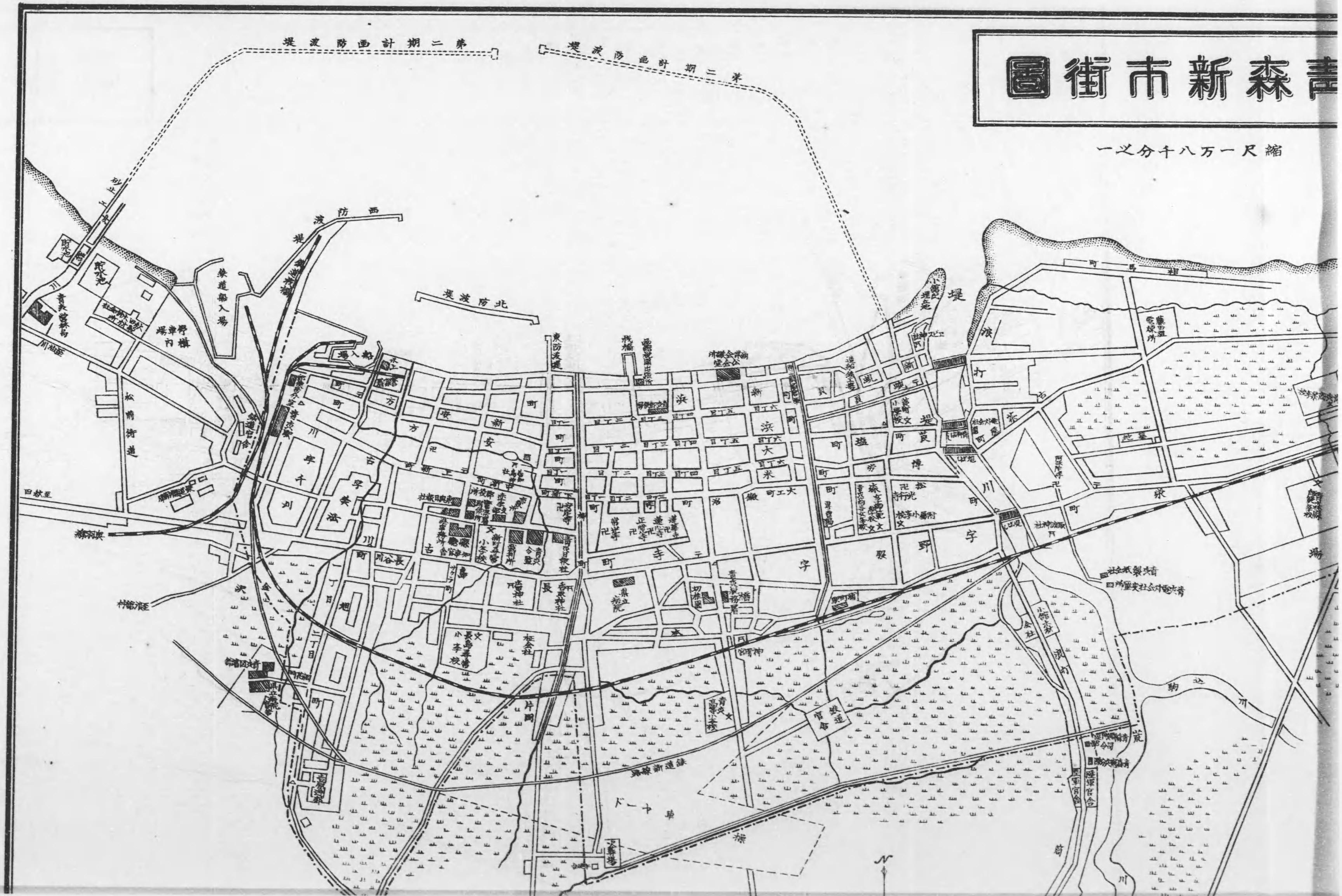
一、會社工場　大正十四年末現在の會社工場（銀行を除き）は其の數百貳個にして總資本金は壹千六百拾九萬五千貳百五拾圓此拂込金額七百八拾萬九千九百七拾五圓を各種事業に投資し其の成績見るへきもの尠なからす

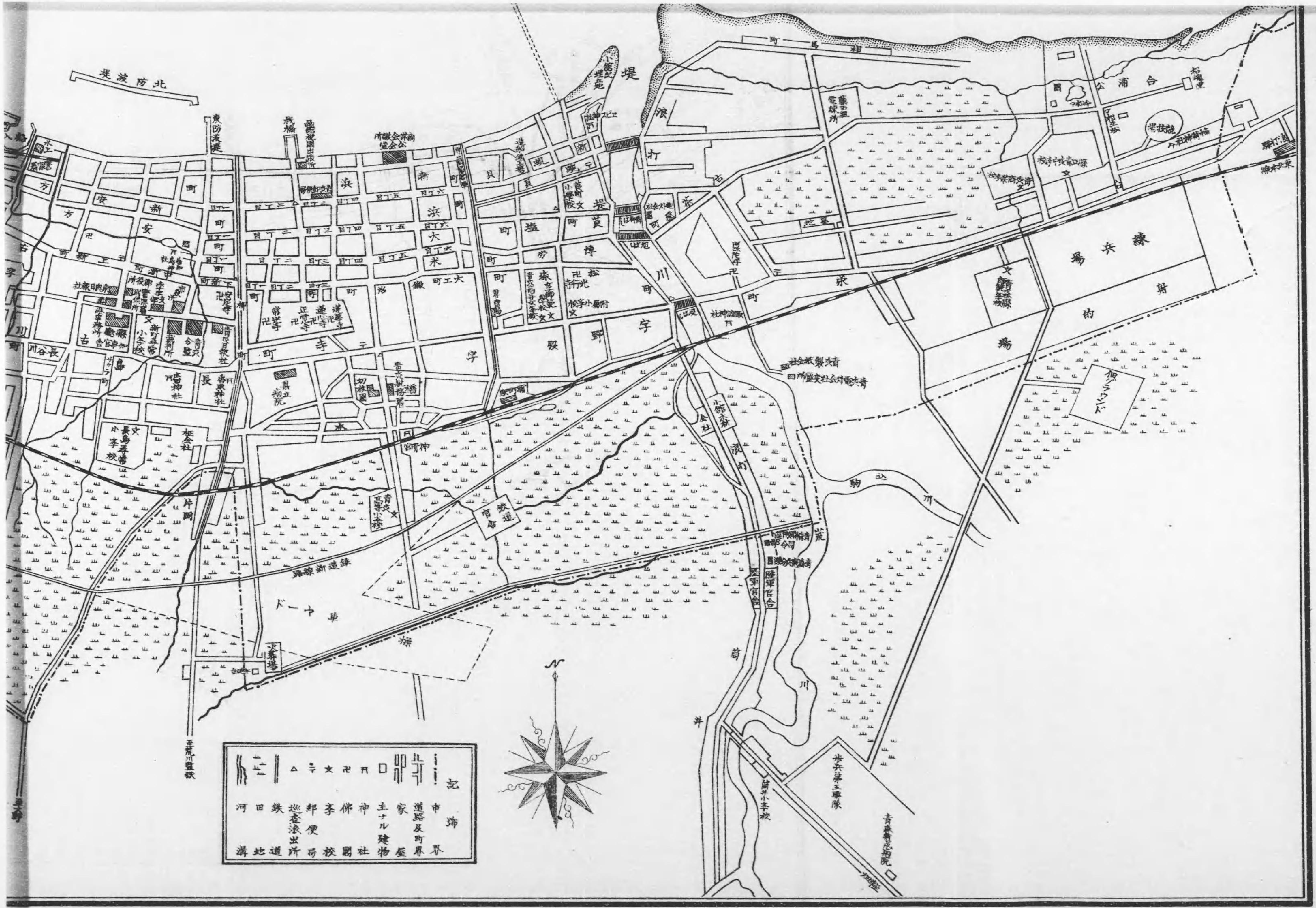
會社工場組織別	會社數	資本額	拂込額
株式會社	七二	一、五六二、九〇〇円	七、二四三、七二五円
合資會社	二四	四五四、七五〇	四五四、七五〇
合名會社	六	一一一、五〇〇	一一一、五〇〇
合計	一〇二	一六、一九五、二五〇	七、八〇九、九七五

青森市產業要覽　終

實地踏查
青森新市街圖
縮尺一万八千分之一
第二期計画防波堤
西防波堤
北防波堤
東防波堤
合浦公園
練兵場
射的場
駒込川

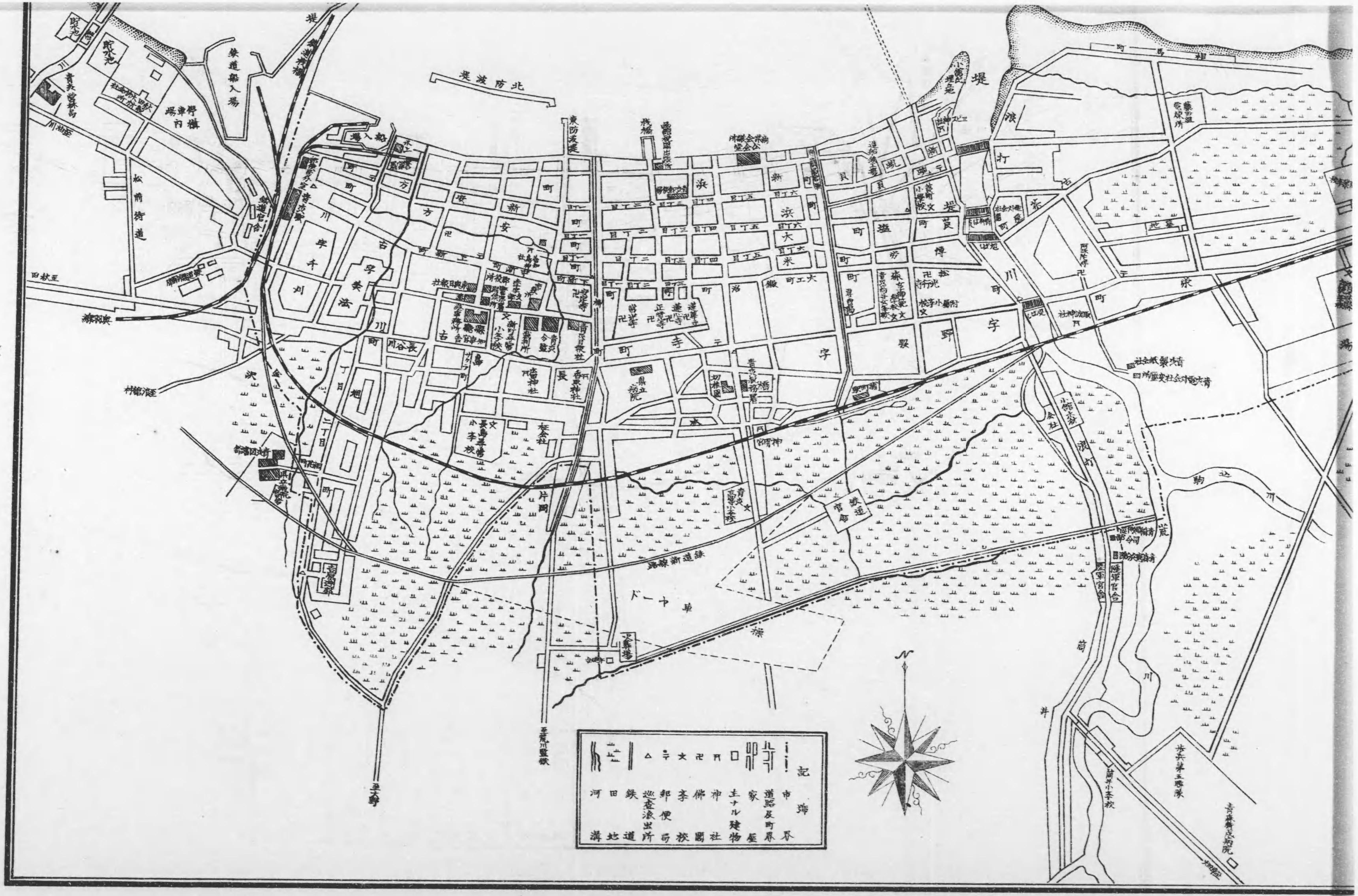
青森市産業要覽 終


青森新市街圖
縮尺一万八千分之一
第二期計画防波堤
西防波堤
北防波堤
東防波堤
新安方町
浜町
大町
米町
寺町
堤町
浦町
古川
長島
松前街道



青森市産業要覧 終

會社工場組織別	會社數	資本額	拂込額
株式會社	七二	一、五六二、九〇〇円	七、二四三、七二五円
合資會社	二四	四五四、七五〇	四五四、七五〇
合名會社	六	一一一、五〇〇	一一一、五〇〇
計	一〇二	一六、一九五、二五〇	七、八〇九、九七五



北防波堤
N
記號
市界
道路及町界
家屋
主ナル建物
神社
佛閣
學校
郵便局
巡査派出所
鐵道
田地
河溝

313
333

昭和二年四月十七日印刷
昭和二年四月三十日發行

青森市役所

青森市大字大野字長嶋三番ノ二號
印刷者　柿崎千代吉
青森市大字大野字長嶋三番ノ二號
印刷所　東奥日報社印刷部

終